

シシリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2024. 1. 26

No. 21



沙流川流域の産業景観 — 文化的景観解説サインの紹介 7 —

本町地区から二風谷ダムの方へ沙流川右岸側を進んでいくと、「沙流川流域の産業景観」のサインとともに、沙流頭首工が見えてきます。この頭首工は 1915 年に完成し、沙流川の中流域・下流域へ農業用水を供給する重要な施設となっていました。長らく地域の農業を支えた頭首工ですが、1997 年に二風谷ダムができ取水機能を担うことになり、その役目を終えました。現在は、地域における農業の歴史を伝える歴史的な遺産として保存されています。

頭首工の後ろの山々に目をむけると、そこにはパンケトコム、ペンケトコム、というアイヌ伝承が残る特徴的な地形があり、またその周辺では林業が営まれています。サインのある視点場からの眺めは、基盤となっている自然景観の沙流川、地域の生活を支えてきた頭首工、アイヌ語地名が残る景観、そして現在の産業まで、一目に見ることができます。 (山本 雄)



パンケトコム、ペンケトコムから見るアイヌ語地名

トコムはくるぶしを意味します。上の写真では、こぶ状の山が二つ並んでいるところがそうです。パンケは下のほう、ペンケは上のほうをさすアイヌ語で、パンケ○○、ペンケ○○とセットの地名であることが大半です。例えば、本町の対岸にはパンケピラトゥルナイ、ペンケピラウトゥルナイがあります。

沙流川流域の野鳥たち No.9

スズメ目ヒタキ科

観察難易度：★☆☆☆

ツグミ

学名：*Turdus naumanni*

英語名：Dusky Thrush

漢字名：鶇

大きさ 全長 24 cm 翼開長 39 cm 体重 70 ～ 100 g

鳴き声 地鳴き※ “クワックワッ”、“クイツ、クイツ”
飛び立つときによく聞かれる
“キィキィ”、“チリーッ”

時期 冬鳥または旅鳥（11 月～5 月）

特徴 代表的なツグミ類。スズメとハトの中間ぐらいの大きさ。

頭から上面は黒褐色～茶褐色でオスメスほぼ同色だが個体差がある。胸から腹にかけて黒い鱗状の模様がある。翼の広い部分が茶褐色で静止時、飛翔時に目立つ。頬、喉、目の上は白っぽい。くちばしは黒く、根元は黄色っぽい。足は赤黒い。
地中のミミズや昆虫の幼虫などを掘り返して食べる。積雪時には木の実などを食べる。

生息場所 平地から低山の森林、草原、農耕地、河川敷

行動 エサを探している時は、両足でピョンピョンとはねて移動しては胸を斜め 45 度に反らして立ち止まり、あたりを警戒するツグミ独特のポーズをする。これが「だるまさんが転んだ」のポーズに似ている。

飛び方は直線的で翼を数回羽ばたいては体につける動きを繰り返す。この飛び方で繁殖地のシベリア方面までの長距離の渡りに適している省エネ飛行が出来る。北上する時期には、長旅に必要な脂肪分を蓄え、体重を増やす。

（久米智江）

地鳴き…さえずり以外の声。さえずりは主に繁殖期にオスが出す声。地鳴きは一年中オスもメスも出す。個体認識や居場所の確認、警戒、威嚇、争いなどいろいろな意味と役割がある。



上の写真（2枚）
太田裕子氏（新冠町）より寄贈



木の実を食べようと歴史館入口に現れたツグミ。
目の前の板に自分の姿が映ったのを見て別のツグミが来たかと勘違いし、追い払おうと飛び上がって蹴っていました。

かつてはカスミ網で大量に捕獲され、食用にされた。1947 年（昭和 22）にカスミ網による野鳥の捕獲は禁止され、鳥獣保護法によって保護鳥になったが、依然密猟が行われている。

二風谷アイヌ文化博物館 第 29 回特別展

二風谷に生きたマンロー先生

期間：10/3(火)～12/3(日)

本特別展は「マンロー先生を偲ぶ会」運営委員会と協働して制作しました。外科医・人類学者のニール・ゴードン・マンロー（1863-1942）は昭和7（1932）年に移住して以来、逝去するまで二風谷に居住しました。展示では同地で氏が無料診察やアイヌ研究に励んだ様子をパネルや映像、地域住民や博物館施設等から借用した資料で紹介しました。（廣岡絵美）

【特別展関連事業】

日 時	事業名	概 要
10/15(日) 13:30-15:15	講座①「マンロー館の建築と北大への寄贈並びにマンロー先生顕彰碑建立について」	昭和8（1933）年に建設されたマンローの邸宅は幾人かの手を経て昭和42（1967）年に北海道大学に寄贈された。二風谷アイヌ文化保存会の募金活動により昭和50（1975）年には邸宅前にマンローの顕彰碑が建立され、同大学に寄贈された。講師：出村文理氏（北海道史研究協議会会員・北海道考古学会会員）
10/15(日) 15:30-16:45	講座②「ニール・ゴードン・マンローの二風谷での生活―手紙資料からわかることを中心に―」	1931～1940年にマンローが関係者に宛てた書簡から、二風谷での生活や研究に関する記述が紹介された。講座の結びでは、「信仰の自由を得るための願い」と題した未完の小論文でマンローがアイヌとヨーロッパの人々の風俗習慣の比較を試みたことや、当該論文の再考の必要性についての内田氏の見解が述べられた。講師：内田順子氏（国立歴史民俗博物館教授）
11/25(土) 13:30-15:05	イヨマンテ映像上映会	マンローが昭和5（1930）年に二風谷で研究のために撮影したイヨマンテ映像（国立歴史民俗博物館蔵）を上映した。



写真①10/15 出村文理氏による講演。



写真②10/15 内田順子氏による講演。
(写真①②の会場は沙流川歴史館レクチャーホール)



写真③特別展会場（二風谷アイヌ文化博物館伝承サロン）。



写真④11/15 イヨマンテ映像上映会（レクチャーホール）。

終了報告

沙流川歴史館特別展 『二風谷の銘石とアオトラ石 ～生業を支えた石たち～』



▲木村文隆さんの作品



▲貝澤修治さんの作品



沙流川歴史館では、10月3日(火)～12月3日(日)まで特別展『二風谷の銘石とアオトラ石～生業を支えた石たち～』を開催いたしました。地元の方の作品、資料などの展示をたくさんの方々に観賞していただきました。ありがとうございました。

沙流川歴史館特別展 関連事業 『この石な～に？石・鉱物の鑑定会 in沙流川歴史館』



▲岩石と鉱物の説明をしている様子



▲鉱物の鑑定をしている様子



▲日高山脈博物館学芸員 東 豊土氏

12月3日(日)には沙流川歴史館関連事業「石・鉱物の鑑定会」と題して、東豊土氏を鑑定士に招いて開催しました。石の種類や特徴など、分かりやすく説明してくれました。(坂本エミ)

沙流川の銘石をたくさんお貸しいただきました。
ありがとうございました。

木村文隆さん

貝澤修治さん

アイヌ語を覚えてみよう ㊤

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、アイヌ語の短い物語をそのまま紹介します。

コンル カ タ ポノロケウポ ハーチリ	氷の上に小さなオオカミがころがった
コンル ヌプル クス タシ ネーネク	氷が偉いからだろうよ
コンル ヌプル マヌ チュプ ルーレ	氷が偉いのに太陽に溶かされる
チュプ ヌプル クス タシ ネーネク	太陽が偉いからだろうよ
チュプ ヌプル マヌ カシ ニシクル クシ	太陽が偉いのにその上を雲が通る
ニシクル ヌプル クス タシ ネーネク	雲が偉いからだろうよ
ニシクル ヌプル マヌ オロ ワ アプト ハーチリ	雲が偉いのにそこから雨が落ちる
アプト ヌプル クス タシ ネーネク	雨が偉いからだろうよ
アプト ヌプル マヌ トイ カ オシーマ	雨が偉いのに土の上に落ちる
トイトイ ヌプル クス タシ ネーネク	土が偉いからだろうよ
トイトイ ヌプル マヌ カシ ワ チクニ ヘドークパ	土が偉いのにその上に木が生えるの
チクニ ヌプル クス タシ ネーネク	木が偉いからだろうよ
チクニ ヌプル マヌ アイヌ タ ワー オケレパ	木が偉いのにアイヌに伐られる
アイヌ ヌプル クス タシ ネーネク	アイヌが偉いからだろうよ
アイヌ ヌプル マヌ ライ ワ オケレパ	アイヌが偉いのに死んでしまうの

アイヌ ライ コロ フッサフッサ アカラ コロ ピリカ プ ネ ワ シクヌ プ ネ ワ よ
アイヌが死んだらフッサフッサ と息をかけるといいものだ 生き返るものだ よ

萱野茂のアイヌ神話集成 資料編より引用（語り手：平賀さたもさん 1965年9月20日録音）

まるで「ねずみの嫁入り」のようなストーリー展開ですが、ここでは、早口言葉の一つとして紹介されています。フッサフッサ とは、病気や怪我を治すために息を吹きかける時の音のことです。アイヌ（人間）も登場するところが面白いですね。有難いことに、音声も公開されているので、アイヌ語を楽しみながら勉強するにはピッタリの教材となっています。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）
(生涯学習課 関根健司)

イギリスのジャパンハウス派遣事業④

イギリスにあるジャパンハウスロンドン（以下JHL）で、アイヌ・ストーリーズ展がはじまりました。JHLからの最初の打診は令和元年で、コロナ禍による延期をはさんでやっと実現しました。特にこの1年ほどはJHLの企画局長をはじめとした関係者が何度も来町し、地域住民と様々なやりとりを行いました。地域側も全面的に協力し、この展覧会はJHLと平取町の機関や地域との協働展示となりました。展覧会のオープニングにあわせて平取町長と平取アイヌ文化保存会の方々が渡英しました。在英国日本大使館へ表敬訪問、オープニングイベントに出席し舞踊を披露、その後も連日、展覧会の関連イベントとして舞踊のパフォーマンスやワークショップを実施しました。どのイベントも盛況で、用意された席はほぼ満席となっていました。ワークショップでは、参加者も一緒に舞踊を習い踊るのですがイギリスの方々の楽しんでいる顔が印象的でした。イベントは今後も続きますので、次号でも紹介していきたいと思います。

（山本 雄）



展示販売コーナーの様子



アイヌ・ストーリーズ展の様子



舞踊イベントの様子



平取町とイギリスの関わり④

アーノルド・サーヴィジ・ランドー（1865-1924）は、北海道を一周しその記録を残したイギリス人です。正確な月日は不明ですが、前後の記録から1890年6月に函館を出発したと推測されています。ランドーは沙流川を遡りペンリウクを訪ねています。この旅の記録は、A・S・ランドー著『エゾ地一周ひとり旅 思い出のアイヌ・カントリー』として訳され、町立図書館にも所蔵されていますので、興味のある方は手にとってみてください。

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

テーマ1：学校(4)

明治13(1890)年に現平取管内で最初の学校となる佐瑠太^{さるふと}学校平取分校(現平取町立平取小学校)が平取村に設立され、明治25(1892)年には簡易科平取小学校となりました。

二風谷村は同校の通学区域でしたが、通学路は約7kmもある上に悪路でした。住民の貝澤ウサメトク(生没年不詳)と貝澤ウトレントク(1862-1914)は学校設置に奔走し、明治25(1892)年に平取小学校二風谷分教場(現平取町立二風谷小学校)が設立されました。同校は明治28(1895)年に尋常小学校となり、大正5(1916)年に旧土人保護法第9条による国立旧土人小学校となります。

『北海道教育雑誌』第9号(1893)に掲載されている「あいぬ教育ノ方法」は、北海道教育会アイヌ教育取調委員の岩谷英太郎^{いわや えいたろう}と永田方正^{ながた ほうせい}が執筆しました。小学校でアイヌ児童に対する教育を実施するにあたり、学科は修身科と読み方・作文・習字・算術と実業科を設置すること、



建設途中の平取小学校二風谷分教場の校舎。同校は明治25(1892)年11月5日に創立した。写真蔵：平取町立二風谷アイヌ文化博物館。

実業科では夏期に農業、冬期には工芸の熟達者が嘱託教師となり彫刻を教えることなどが提案されています。二風谷での授業の状況について、前述の貝澤ウトレントクの子孫は、同氏が小学校で子どもたちに木彫を教えていたと伝え聞いています。

明治44(1911)年に二風谷尋常小学校の校舎が腐朽した際は、平取村からの補助金や二風谷青年会・住民の寄付金等で新築工事が行われました。当時の寄付者名簿は現在、萱野茂二風谷アイヌ資料館に展示されており、地域の寄付者らとともにウトレントクの名前が記載されています。明治・大正期を代表するアイヌ工芸師は、地域の児童教育のために壮年期から晩年に至るまで貢献しました。

(廣岡絵美)

◀ 貝澤ウトレントクの肖像写真(貝澤徹氏蔵)。

平取町開拓財産展示施設(平取町字荷負77-3) 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 8:45～12:45

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館のお知らせ

4月15日までの毎週月曜日は定期休館になります。

萱野茂二風谷アイヌ資料館

■冬期休館（4月15日まで）

問合せ：TEL 01457-2-3215

沙流川歴史館

■企画展

『写真で見る昭和のびらとり』

【第三弾】（仮題）

期 間：4月23日（火）～5月26日（日）

場 所：沙流川歴史館企画展示室

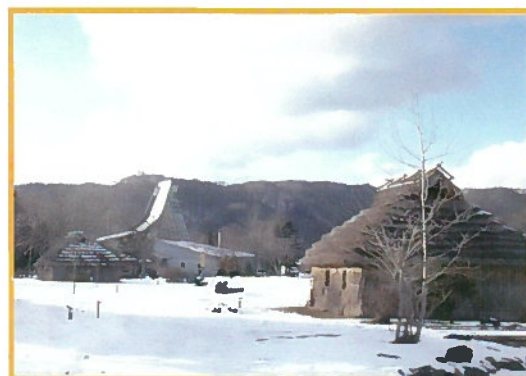
休館日：毎週月曜日

※4月30日、5月6日は開館

今年の平取町は雪が少なく穏やかな冬になっています。他地域では大雪で毎日の除雪も追いつかないところがあるようです（令和5年12月末現在）。このまま穏やかに春が来てくれるとうれしいですが、長い冬を越すのはまだまだ先になります。

雪が少なくても、冬にしか見られない沙流川の景観があります。厳冬期には空気が澄むことと、広葉樹が落葉することにより川や山、アイヌ伝承地やチャシ跡等が鮮明に見渡せるようになります。実は地域の歴史探訪にとっては良い季節でもあるのです。

博物館、歴史館見学と合わせて、ぜひ二風谷の冬を楽しんでみてください。近くにはびらとり温泉ゆからもありますよ。来られる際は凍結路面に十分注意の上、安全運転でお越しください。（笠原早百合）



2024年1月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

2024年2月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	1	2

2024年3月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2024年4月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

● 博物館・歴史館 休館日 ● 博物館休館日 ● 歴史館休館日

シシリムカ文化財だより No. 21

2024年1月26日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

